

## 二枚の布マスク

我孫子市立白山中学校三年 中田 陽南

通称「アベノマスク」これまでの私の人生で最も身近に感じ、意識するきっかけとなった税金の使われ方。マスク不足解消の為に配られた二枚の布マスク。総額二六〇億円。

もちろん私の所にも、みんなと一緒に学校に届けられた。昔ながらの白い日本製の布マスクは、清潔感と温かみがあった。そして果たしてどれ程ウイルスの飛散を防げるのかといった頼りなさもまた、私たちの笑いのネタとなる。それと同じ頃店頭にも市販のマスクが並んだことは、生産が追いついただけではない。きっと誰もがマスクを手にする安心感により、買い占めが減ったことも大きいだろう。

今に至るまで「アベノマスク」の着用はしていない。周囲にも使用している人を見掛けることはほとんどなく、結果として税金の無駄遣いという言葉だけを何度も耳にした。しかしそれは結果論であり、あの頃誰もが平等に受け取ることの出来た二枚の布マスクは、間違いなく私たちの気持ちにゆとりを与えた。マスクが無ければ学校にも通えない。その不安からどれだけの人が解放されたことか。マスク不足そのものの解消よりも、我れ先にとマスクを買いに並んでいた、殺伐とした人々の不安を何よりも取り除いたように思う。

こうして私の手元にもマスクが届いたが、空から降ってきたわけでも、風に飛ばされてきたわけでもない。「道路」を使って運ばれてきたわけで、この「道路」もまた税金を使って新設、補修が繰り返されている。当たり前前の生活を、当たり前前に送れる事。小学校に入学してから毎年、当たり前前に受け取っていた教科書も、毎日通学で使用している歩道橋も、税金は私たちが当たり前前の生活を送る為に使われている。

コロナ禍の今、体育祭や合唱コンクールの中止、給食の黙食など、我慢を強いられている事が沢山ある。今しか出来ない経験をいくつも奪われてしまった私たちにとって、税金によって配られた二枚の布マスクは、いつか青春を語り合う話の種になるのかもしれない。

間もなく私は義務教育を終え、また一つ大人へと近づく。これから先も、当たり前前の生活を当たり前前に過ごせるよう、きちんと税金を納められる大人になっしていきたい。その為に出来る事、今はしっかりと勉強をし、自分の夢に向かって進路を切り開いていく事。それが今の私に出来る第一歩だと感じている。

最後に、今多くの家庭で眠っている「アベノマスク」これをこの先もずっと使用せずに済むことが、何よりの当たり前になるだろう。久し振りに手にした私もまた、同じ所に静かに戻した。一日も早く大声で笑い合える日を心から願って。